

製品化事例

共同研究
人材育成
技術相談

釉薬研修を通した笠間焼の製品化支援

支援先

マルヤマタクヤ、鷺沢ワシ子、
宮本果林

【支援の背景】

笠間陶芸大学校では、笠間焼の人材を育てるだけでなく、陶磁器に関する研究開発や、笠間焼業界の技術支援も行っています。これまでに、笠間焼の成形技術や釉薬技術、焼成条件等に関する技術的な相談を受け窯元や陶芸家の製作活動を数多く支援してきました。



図1 開発したニッケル釉の製品
(支援例①)

【支援の内容】

釉薬技術の支援により、製品化された事例を紹介します。
(支援例①)

荒田陶房のマルヤマタクヤ氏からは、釉薬の基礎とオリジナルのニッケル釉の製品化支援について段階的に相談を受けました。当校では、まず実習と座学による研修により工芸陶磁器用釉薬に関する基礎知識の修得を支援しました。次に、保有する焼成見本の提供や釉薬原料配合比の提案、電気炉焼成工程の温度・時間・昇温の各種設定とその微調整に関する情報提供を行うことでニッケル釉の製品化に向けた支援を行いました。

(支援例②)

令和元年度卒業生である鷺沢ワシ子氏からは、笠間焼作家としての活動開始に向けて、釉薬の知識をより深め、笠間焼産粘土を用いた独自の釉薬の開発と製品への適用について相談を受けました。当校では、令和2年度から実施した「陶芸技術者専門研修」を通して支援を行いました。「釉薬技術科目」では座学と実習で釉薬の理論と作製技術の支援を行い、「総合科目」(相談者の要望に応じたオーダーメイド型研修)では笠間産粘土を用いた独自のマット質な釉薬開発のための支援を行いました。

(支援例③)

平成28年度卒業生である宮本果林氏は、これまでは釉薬は用いない無釉品や部分的に釉薬を施したものを中心に作陶してきましたが、販売店や購入者からの意見により、作品・製品の幅を広げるために釉薬の基礎知識の修得と釉薬を全体に施した陶製オブジェを製品化したいとの相談を受けました。当校では、釉薬研修を通して釉薬の基礎技術の修得を支援し、また乳濁材(釉薬を白濁させる目的で添加する原料)に関する知見・利用法について情報提供も行いました。



図2 開発したマット釉の製品
(支援例②)



図3 開発した白色釉を用いたウサギ
の陶製オブジェ「素兎」(支援例③)

【開発した製品の紹介】

当校の技術支援の結果、製品化された製品を紹介します。(図1、2、3)

基礎となった事業

令和元年度 オンリーワン技術開発支援事業(共同研究)
令和2年度 陶芸技術者専門研修(釉薬技術、総合)
令和元、2年度 試験研究指導費(技術相談)

現在の担当グループ

窯業技術G

グループ長
主任研究員
技 師寺門 秀人
吉田 博和
曾我部 雄二

TEL:0296-72-0316

陶芸人材G

グループ長
会計年度任用職員尾形 尚子
根本 達志